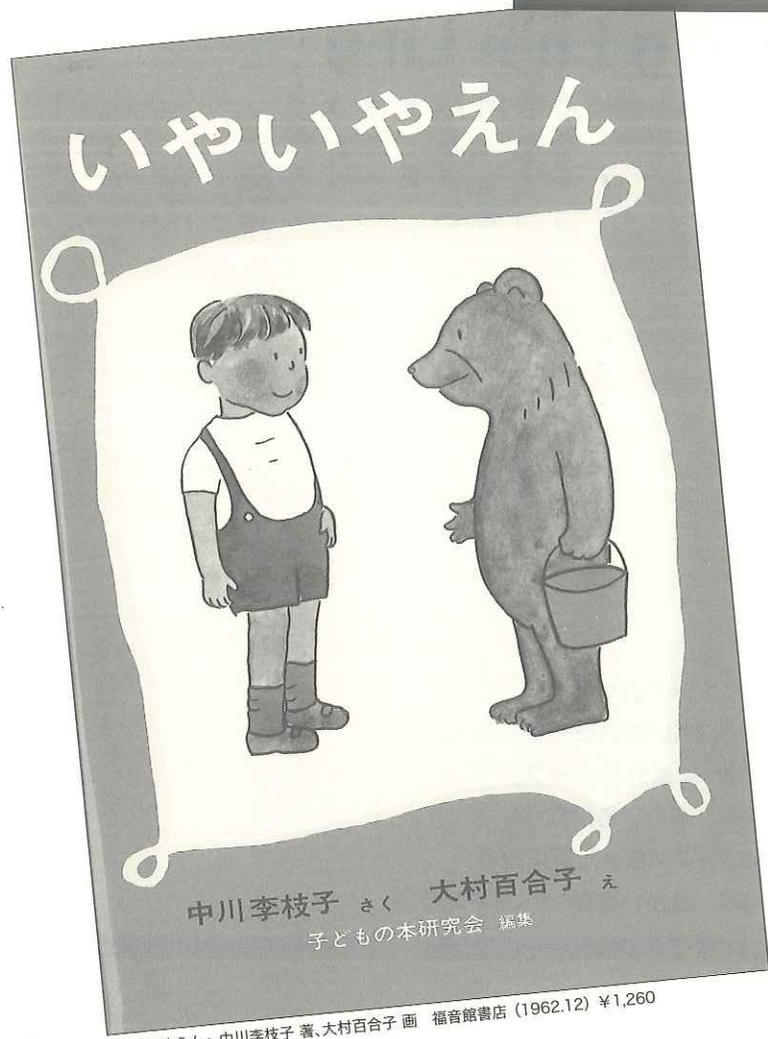


3-01

いやいやえん  
いやいやえん



『いやいやえん』中川李枝子 著、大村百合子 画 福音館書店 (1962.12) ¥1,260

■書誌  
初出は「いたどり」昭和34(1959)・7。童話集『いやいやえん』昭和37(1962)・12、大村百合子画、福音館書店刊。

みどころ

保育園勤務をしていた作者の「子どもが本当に楽しむものは何かを子どもたちから教えられていた」という経験から生まれた作品。全てのエピソードは、どこの保育園でもよく見かけるような出来事が発端である。それが、デフォルメされ、徐々に拡大されていくことで、読み手はファンタジーの世界へと誘い込まれる。保育園の教室がいつの間にか大海原と化し、新しく教室がきたお友達はずる熊となる。だがこの方法で現れたファンタジーの世界はあくまで子どもたちの日常の延長上にある。このため、その世界での行動は現実の子どものものである。日本の幼年童話に新時代を開いたとさ

れ、出版後四十年を経た現在でも版を重ねている。

あらすじ

ちゅーりっつ保育園には、約束が70位ある。しげるは約束をよく忘れる四歳の男子である。しげるを中心に、ちゅーりっつ保育園の日々を六つのエピソードで構成した作品。積み木で作った船でクジラとりでかける話。しげるがちゅーりんのまねしのできなくなってしまう話。山の子熊が保育園にきた話。保育園を休んだしげるがオカミに食べられそうになる話。美味しいものが生る五つの山へ山登りに行く話。おみやげのおもちやの自動車の色が気に入らないとだだをこねたしげるが、「いやいやえ

ん」に行かされる話。そこで、「いやなことはいなくてもいい」ことに懲りたしげるは、決まりがたくさんあっても、やっぱりちゅーりっつ保育園が一番楽しいと気づく。(中川理恵子)



『ぐりとぐら』  
中川李枝子 著  
大村百合子 画  
福音館書店  
(1967.1) ¥840



『そらいろのたね』  
中川李枝子 著  
大村百合子 画  
福音館書店  
(1979.5 改訂版)  
¥840



『たんだのたんけん』  
中川李枝子 著、山脇百合子 画  
学習研究社 (1971.4) ¥945

中川李枝子  
なかがわりえこ

昭和10(1935)・9・29～。児童文学作家。北海道生。東京都立高等保母学院卒。学生時代、同人誌「麦」に参加。保育園勤務のかたわら同人誌「いたどり」を発行する。最初の作品『いやいやえん』(昭37)で、NHK 児童文学奨励賞、サンケイ児童出版文化賞、児童福祉文化賞、野間児童文芸推奨作品賞受賞。以後、幼児を対象とした創作を中心に活動。絵本『ぐりとぐら』(昭42、山脇(旧姓大村)百合子画)は、海外でも出版されている。(中川理恵子)